

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業  
「ソーシャル・キャピタル創出とヘルスケアデータ一元化による  
地域包括ケアシステム研究拠点の形成」(KAGUYA プロジェクト)  
平成 30 年度研究成果報告書

## 1. 研究目標

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
- 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証
- 4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

## 2. 平成 30 年度研究計画

- (1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
  - ① 高齢期追跡調査を行う。
  - ② ベースライン調査（高齢者、壮年期、両者の統合）の解析し、引き続き実態を把握する。
  - ③ 調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いてマッピングを行う。
  - ④ ベースライン調査と町が保有するデータの一元化を目指した協議を町と継続的に行う。
- (2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
  - ① 広陵町地域包括支援センター職員とともに定例会議を引き続き開催し、情報の共有および意見交換を行う。
  - ② 学生とともに認知症カフェに参画し、フィールド確保を継続する。
  - ③ 広陵町内の認知症カフェや老人クラブにおいて、開発したアプリケーションの有効性について、データ収集および得られたデータを分析する。
  - ④ 認知症ケアに関する医師や CNS・DCN などの専門家にアプリケーションの内容について意見を求め、内容妥当性の確保とともに質問肢を精錬する。
  - ⑤ 認知症アプリケーションにふさわしい名前を募集し、命名する。
  - ⑥ 前年度、投稿した研究成果について各学会、論文等で成果を公表する。
  - ⑦ 研究会や学会等に参加し、最新の知見を得る。
- (3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証
  - ① 介護予防リーダーの継続的育成と有効性に関する検証
    - ・昨年度に引き続き介護予防リーダー養成講座は実施される方向性で検討中である。
    - ・活動後一定期間を経た段階で体力測定や活動に対する意識調査を実施していく予定である。
    - ・意識調査においては活動による主観的健康感の変化や活動に対する自己効力感などを聴取する予定である。

(4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

・学生チームによる小規模での実践活動

① TASK の学生募集、定期活動の継続

② 小規模での実践活動の継続

・KEEP、認知症班との連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。

③ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果

・学生に対する現在の健康行動や住民支援の理解度、地域への意識等の事前評価を実施する。

・文献レビューから教育効果が得られやすい研修内容・方法論を検討する。

④ 高齢者調査、壮年期調査から若者との交流等の健康関連指標との関係について検討する。

### 3. 研究成果の概要

#### 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究

① 高齢者ベースライン調査に回答のあった 3,866 人のうち、平成 31 年 1 月 1 日現在で転居、死亡した人等を除く 3,445 人に対し平成 31 年 2 月に追跡調査を行った。現在、集計及び追加調査を計画中である。

② 高齢者・壮年期ベースライン調査の解析を進め、論文発表及び学会発表を行った。

③ 調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いてマッピングする準備を整えた。次年度も継続して解析を行う。

④ ライン調査と町が保有するデータの一元化を目指した協議を町と継続的に行った。その結果、ベースライン調査時における KDB データの一部とベースライン調査を統合することができた。

#### 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびアプリケーション開発

① 広陵町地域包括支援センター職員とともに定例会議を 3 回開催し、情報の共有および意見交換を行った。

② 学生とともに御所市 4 回および津越地区 4 回の認知症カフェに参画し、フィールド確保を拡大した。

③ 認知症ケアに関する医師にアプリケーションの内容について意見を求め、内容妥当性の確保とともに質問肢を修正変更することにより、ほぼ完成に近い状態にすることができた。

④ 認知症アプリケーションにふさわしい名前を募集し、「きおトレ」アプリと命名した。

⑤ 日本看護福祉学会に参加し、認知症ケアに関する最新の知見を得た。

#### 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成

(1) 受講生への知識確認および健康・認知症等への認識の変化などの調査を実施

① 介護予防リーダー養成講座の実施

② 介護予防リーダー（KEEP）活動の支援

③ TASK による介護予防リーダーの健康度チェックと意見交換

4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

(1) 学生チームによる小規模での実践活動

① TASK の学生募集、定期活動の継続

- ・ TASK の募集を行い、昨年同様、5 学科 162 名の学生が登録されている。
- ・ 勉強会 計 9 回

勉強会	日付	内容
1	2018/4/25	バランス
2	2018/5/17	健康チェック
3	2018/6/25	体力測定
4	2018/6/23	認知症セミナー
5	2018/7/10	人体工学から考える椅子
6	2018/9/28	応急救護(AED)
7	2018/10/24	肩こり・腰痛のストレッチ
8	2018/11/29	知れば活かせる！糖尿病について
9	2019/12/21	楽しく遊んで手軽に脳トレ

② 小規模での実践活動の継続

- ・ 昨年同様、広陵町内での活動および他のプロジェクト (KEEP) との共同事業を行った。
- ・ 地域実践活動 計 5 回

活動	日付	内容
1	2018/4/22	広陵町身体体力測定会(保健センターと共同)
2	2018/7/8	いのちを守るイベント(保健センターと共同)
3	2018/10/21	畿央祭ウエルカムキャンパス(第 4 回シニアキャンパス)
4	2018/10/27	広陵町身体体力測定会(保健センターと共同)
5	2019/3/26	介護予防リーダー養成講座(KEEP と共同) (地域包括支援センターと共同)

③ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果

- ・ 継続的に情報収集及びレビューを行い、評価指標および調査方法を検討している。
- ・ 卒業生へのヒアリング・調査可能なネットワーク作りを進めている

④ 高齢者調査、壮年期調査から若者との交流等の健康関連指標との関係について

- ・ 追跡の高齢者調査に学生チームとの関わりの有無についての設問を入れた。

#### 4. 平成 31 年度研究計画

##### (1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究

- ① 壮年期追跡調査を行う。
- ② ベースライン調査（高齢者、壮年期、両者の統合）の解析し、引き続き実態を把握する。
- ③ 高齢期ベースライン調査と追跡調査の結果を統合させ、3 年間の変化に関する解析の準備を整える。
- ④ 調査結果を GIS（地理情報システム）と統合させ、各地域の特徴を明らかにする。
- ⑤ ベースライン調査及び追跡調査と町が保有するデータの一元化を目指した協議を町と継続的に  
行い、平成 30 年度に完了できなかった町データとの統合を行う。

##### (2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発

- ① 広陵町地域包括支援センター職員とともに定例会議を引き続き開催し、情報の共有および意見交換を行う。
- ② 学生とともに認知症カフェに参画し、フィールド確保を継続する。
- ③ 広陵町内の認知症カフェや老人クラブにおいて、開発したアプリケーションを試用し、有効性について、データ収集および得られたデータを分析する。
- ④ 認知症アプリケーションを完成する。
- ⑤ 前年度、調査した研究成果について各学会、論文等で成果を公表する。
- ⑥ 研究会や学会等に参加し、最新の知見を得る。

##### (3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証

- ① 介護予防リーダーの継続的育成と有効性に関する検証
  - ・昨年度に引き続き介護予防リーダー養成講座を実施したが、活動後一定期間を経た段階で体力測定や活動に対する意識調査を実施していく。
  - ・介護予防リーダーが支援した介護予防教室における参加者の運動機能変化を分析し、自助と互助の客観的効果を明らかにしていく。

##### (4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

- ① TASK の学生募集、定期活動の継続
- ② 小規模での実践活動の継続
  - ・KEEP、認知症班との連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。
- ③ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果
  - ・学生に対する現在の健康行動や住民支援の理解度、地域への意識等の評価を検討する。
  - ・上級生・卒業生へのヒアリングおよび調査を行い、教育効果について検討する。
- ④ 高齢者調査、壮年期調査から若者との交流等の健康関連指標との関係について検討する。

## 5. 論文及び学会発表

### 1) 論文

- ① 文鐘聲, 松本大輔, 高取克彦, 山崎尚美, 宮崎誠. 地域在住高齢者におけるソーシャル・キャピタル及び社会経済的状态と主観的健康感との関連—KAGUYA プロジェクトベースライン調査. 畿央大学紀要, 15(1), 11-19, 2018
- ② Takatori K, Matsumoto D, Miyazaki M, Yamasaki N and Moon JS. Relationship between Self-Perceived Age and Social Activity in Older Japanese Adults: The KAGUYA Study. Health, 10, 1459-1473, 2018
- ③ Takatori K, Matsumoto D, Miyazaki M, Yamasaki N and Moon JS . The difference between self-perceived and chronological age in the elderly may correlate with general health, personality and the practice of good health behavior: A cross-sectional study. Archives of Gerontology and Geriatrics, 83, 13-19, 2019

### 2) 学会発表

- ① 文鐘聲, 串田修, 松本大輔, 山崎尚美, 高取克彦, 宮崎誠. 地域在住高齢者における朝食欠食と生活機能との関連. 第60回日本老年医学会学術集会, 2018年6月(京都市)
- ② 串田修, 文鐘聲, 松本大輔, 山崎尚美, 高取克彦, 松本泉美, 宮崎誠. 同居者のいる地域在住高齢者における共食有無と健康状態との関連. 平成30年度全国栄養士会大会, 2018年7月(横浜市)

## 6. その他

- ① 2018年10月21日(日)、「畿央大学シニアキャンパス」を開催した。今年度は大学祭(畿央祭)開催期間中に合わせて、広陵町と共催し認知症関連講演会、RUN 伴応援企画、体力・骨密度測定会を行った。
- ② 学内教職員による会議 計9回開催(4/17, 5/22, 6/19, 7/17, 9/20, 10/18, 11/15, 12/20, 2/21。全てコア会議)